

サイジャーナル

月刊
2-5-6
第451号

日本サイ科学会 令和2年5月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908 FAX 022 (274) 0097	中 部 〒455-0053 名古屋市港区 名四町113 眞 野 博 英 ☎ 090-9196-2963	北 陸 〒920-0031 金沢市広岡2-7-25 プレミスト金沢駅西口1 804号 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 2034	関 西 〒545-0034 大阪市阿倍野区 阿倍野元町1-2 和 田 高 幸 ☎ 06 (6624) 0569 FAX 06 (6624) 5061	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048 FAX 095 (883) 6159
--------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

六月通常総会・本部例会のお知らせ

※会員は午後1時30分から通常総会、一般の方は午後2時からの本部例会からご参加願います。

日時 令和2年6月14日(日)

午後1時30分～2時 通常総会

午後2時10分～4時40分 講演

会場 北とぴあ9階902会議室

交通 J R 京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員二千円(当日入会可)

一般三千円 学生一千円

講演

多能性幹意識の誘導による
超能力の覚醒とシーター波
の脳波(iPT意識)

講師 山崎 正男氏

超能力の真意を問う不毛の論争は、古今東西続いています。いまだに結論は出されておられません。その背景にあるのは科学的根拠に

◎事務局からのお知らせ

5月3日(日)に開催予定でしたスピリチュアル研究分科会中止となりますが、新型コロナウイルスの感染拡大が今後も縮小しない場合は、6月以降の本部例会、分科会等は中止になる可能性があります。

遅くとも開催一週間前には公式サイト、会員メーリングリスト(登録者のみ)で、開催の可否をお知らせ致しますが、一応開催日前日も公式サイトでご確認願います。

基づくエビデンスの欠如であり、そのコンセンサスが得られないからです。しかしながら、30年間にわたり超能力の解明という命題に取り組んできた結果、超能力は六番目の知覚機能であることを発見し、「iPT意識」のタイトルで学術論文を執筆しました。

釈迦牟尼ブッタは、2500年前に瞑想により不可思議なビジョンを体験し、そのビジョンを「悟り」として仏教の開祖になった。ブッタは超能力の第一人者だったのです。

透視、予知、過去知、体外離脱、

今月号の記事

- ◎六月通常総会・本部例会予告
- ◎事務局からのお知らせ
- ◎御寄付御礼
- ◎七月本部例会のお知らせ
- ◎事務局からのお願い
- ◎事務局からのお知らせ
- ◎十月第29回全国大会発表者募集
- ◎関西日本サイ科学会五月、六月研究集会のお知らせ
- ◎第40回宇宙生命研究分科会予告
- ◎平成31年2月本部例会の報告Ⅱ
- ◎第5回占星学と運命創造学の研究分科会の報告Ⅱ
- ◎第四四五回関西サイ科学会報告
- ◎第四四六回関西サイ科学会報告
- ◎念力(透視)現象生起時の意識(ASC、無意識)
- ◎地震の動物予知

臨死体験、テレパシー、テレポーテーション、遠隔気功、念力、霊能力、霊視、心霊手術、特異効能、透聴、直観、物質化現象、アブダクション、知的生命との交信、オーブ現象、仏教の悟り、このような超常現象、超能力は、変性意識状態で覚醒するのです。そして、多くの人が超能力を覚醒すれば、

政治、経済、教育、文化、芸術、科学、医学、スポーツ、音楽、農林水産などさまざまな分野で、人類は計り知れない恩恵を受益できます。講演では超能力のメカニズムと覚醒のメソッドを分かりやすく解説します。

※山崎正男氏は長年、「サイ」を多方面から科学的研究を続け、その成果により一般人でも超能力を発揮できるシステムを開発されました。会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加願います。

◎山崎正男氏プロフィール

MSU Mindanao State University
Dr. Masao Yamazaki, Ph.D. 医学博士、名誉教授。

欧米、欧州、東南アジアを歴訪し東西医学の研鑽を積む傍ら、脳生理学と脳波の観点から、「気の医学」の有効性を実証し、代替・補完医療のEBMを確立する。30年間の研究、臨床試験から、『超感覚外知覚』(ESP)という六番目の知覚機能を発見し、そのメカニズムを解明して学術論文を執筆する。

日本iPT意識研究所所長、上海国際医学気功学会組織委員、日

本プロスポーツリハビリセンター院長、国際気功科学アカデミー学院長等歴任、国内外に多くの門下生を輩出している。新聞、週刊誌、書籍、テレビ、ラジオ、出演多数、著書、人類革命、気功の鉄人他、アピナ出版。

※五月の本部例会はお休みとなります。

「心を科学する博物館」と
一般の御寄付御礼
(4/10受領分まで)

金十万円也	匿名	様
金四万一千円也	浪平	博人様
金二万円也	鴨川	裕司様
金一万円也	千葉ゆかり	様
金一万円也	山崎	正男様
金五千円也	宮前	昭子様
金五千円也	武井	豊様
金一千円也	飛田	洋子様
金一千円也	占部	浩一様
金一千円也	友寄	光子様
金一千円也	濱田	敏博様
金一千円也	山田	真理様

金一千円也	赤松	洋一様
金一千円也	奥村	八郎様
金一千円也	村上	一夫様
金一千円也	八幡	みわ様

七月本部例会のお知らせ

不思議体験談、写真映像発表・討論会(発表者募集中)

日時 令和2年7月19日(日)
午後1時30分～4時30分
会場 北とびあ9階901会議室
J R 京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル
会費 一千円(会員・一般とも)

皆様がこれまでに体験した不思議な現象や不思議な写真・映像を参加者の皆様に紹介しながら、参加者全員で解釈や討論をして、共有する会です。
UFOと宇宙人、オーブや心霊写真、地震雲など地震前兆現象、それらに関わる動画等、是非日本

サイ科学会事務局に事前に「プリント写真」あるいはUSBメモリの郵送、あるいはメール添付ファイルで送信いただければ、有り難いです。(送られたものは返却できませんので、コピーをお願い致します。)

スプーン曲げ等の念力、透視能力・予知能力などサイ能力に自信のある方、または友人、知人に能力者のいる方は是非お連れしてください。

特別講師はおりませんが、参加者の皆様の自由な発言でいつも楽しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がります。

参加費は、会員、一般とも千円です。ので、気楽にご参加願います。

◎事務局からのお願い

「サイジャーナル3・4月号」に年会費の通知と郵便振替用紙が同封されました。既にお振り込みいただいた会員の皆様には御礼申し上げます。もしお振り込みが未

了の方は、いろいろ出費の多い時期で恐縮ですが、日本サイ科学会の活動は皆様の年会費で支えられておりますので、早めのお振り込みをよろしくお願い致します。

※また、日本サイ科学会は近年、会計が厳しくなっておりますので、少しでも御寄付が戴けましたら、助かります。恐縮ですが御寄付をしていただける方は、同封の郵便振替用紙の該当欄にその金額を記入し、年会費に追加して、お振り込みをお願い致します。



◎事務局からのお知らせ

今回通常総会出欠用(正会員・維持会員)も兼ねた会員全員にハガキを同封致しましたが、そこに会員メーリングリストへの登録希望の可否を記入して返送願います。登録希望の方は左記の事務局アドレスに会員メーリングリスト受信用の個人アドレスをお知らせ願います。

office21@psij.mail-box.ne.jp

ML(メーリングリスト)とは?
日本サイ科学会の事務局も含めた会員同士の情報交換の仕組みです。

本人の希望により、メールアドレス(パソコン用、携帯用どちらでも)がメーリングリストに登録されますと(手続きは事務局が行います)、ML用のメールアドレスをお知らせします。

自分が会員の皆さんに知らせたい「サイ」関係の情報、自分の著書の出版、学会発表、テレビ出演、あるいは他のサイ関係の学会・研究会の予告、「サイ」に関する旬な情報等がありましたら、その内容をML用のメールアドレスに送信しますと、瞬時にMLに登録されている会員全員にそのメールが届きます。

その情報に対しての、返信も同メールアドレスに送信しますと全員に読まれます。

マナーとしましては、個人や団体の批判や攻撃、特定の商品やサービス、会社の宣伝にあたるものはお控え願います。また、添付ファイルはウイルスが潜む可能性がありますので、禁止となります。

※メーリングリストでの事務局からのお知らせに対して、個人的に質問したいときは、ML用のメールアドレスではなく、日本サイ科学会のメールアドレスに返信願います。

office21@psij.mail-box.ne.jp



2020年日本サイ科学会 第29回全国大会発表募集

毎年重要な行事である全国大会が、今年も10月24日(土)に開催されます。会員の研究発表+シンポジウムが予定されており、会員の皆様には積極的な発表ご参加を期待しております。

今年のシンポジウムのテーマはこのたびの新型コロナウィルスのパンデミックがありましたので、シンポジウムテーマを変更させていただきます。

変更後のテーマは「サイと免疫カクガン・ウイルスとの闘いも含めて」となります。

会員の研究発表では、シンポジウムのテーマに関してでも、そう

でなくてもOKであり、これまでの研究での新しい発見、現在もしくは近いうちにデータ取りをしてまとめたいこと、偶発現象(UFO、心霊現象等)の目撃と原因の推測・解明、様々なサイ現象の仮説(理論など「サイ」に関連することなら何でも結構です)ので、ご自分の考えや研究成果をまとめ、発表して頂きたいと存じます。

7月末までにタイトルと簡単な内容(200字くらい)をメール、またはFAX、ハガキでお送りいただき、一応審査させていただきます、通りましたら8月31日までに原稿ファイルをメール添付等で戴きたいと思えます。原稿の書式は後でお知らせ致します。

※全国大会での発表はできないが、論文集「サイ科学」の資料として、発表したい原稿も募集致します。論文集「サイ科学2019」末頁の「サイ科学の投稿審査規定」をよく読んで、応募願います。



関西日本サイ科学会
五月研究集会のお知らせ

「癒しのチャイム」
「音」の身体的影響と治療
の可能性

講師 牧野 まきの 持侑氏 じゅん

日時 令和2年5月23日(土)

午後1時10分～4時45分

会場 まつむし音楽堂(大阪市阿倍野区阿倍野元町1・2)

※大阪市立阿倍野市民学習センターは工事のため休館

交通 御堂筋線「天王寺」、近鉄南大阪線「阿部野橋」で阪堺電車上町線に乘換え「松虫」下車すぐ。

会費 会員及び同伴の家族二千元
一般三千元(初回参加者二千元)
学生一千元

問合せ06・6624・0559

関西日本サイ科学会
六月研究集会のお知らせ

病める地球の処方箋
2020年は大転換期

講師 小澤 頼仁氏

日時 令和2年6月20日(土)

午後1時10分～4時45分

会場 まつむし音楽堂(大阪市阿倍野区阿倍野元町1・2)

交通 御堂筋線「天王寺」、近鉄南大阪線「阿部野橋」で阪堺電車上町線に乘換え「松虫」下車すぐ。

会費 会員及び同伴の家族二千元
一般三千元(初回参加者二千元)
学生一千元

問合せ06・6624・0559

第40回宇宙生命研究分科会

第14回UFOオーブシンポジウム
テーマ「宇宙人(ホモ・コスミクス)」

日時 令和2年7月23日(木・祝)

午前10時～午後4時

会場 北沢タウンホール

スカイサロン

(世田谷区北沢2・8・18)

交通

小田急線下北沢駅東口徒歩5分・京王井の頭線下北沢駅京王中央口徒歩5分

小田急バス北沢タウンホール系統 下61(駒沢陸橋)

北沢タウンホール)終点

会費 会員一千元(日本サイ科学会・サトルエネルギー学会・60歳以上・学生)、一般二千元、宇宙人0円

※事前参加申し込みは不要です。

※当日会場にて直接、現金にて参加費をお支払い下さい。

(世話役 阿久津淳)

平成31年2月本部例会報告II

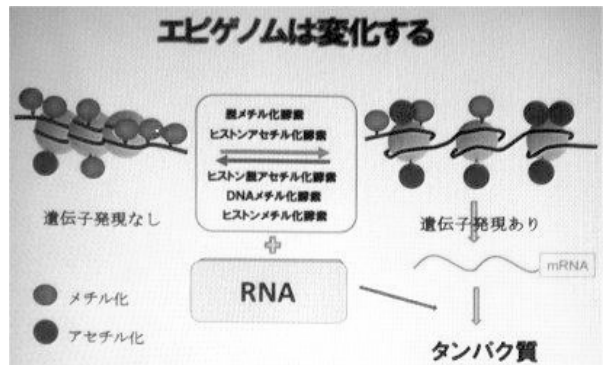
栄養とエピゲノム、EMの研究

講師 東中川 徹氏

(前回からの続き)

エピゲノムは変化する

エピゲノムは、メチル化された

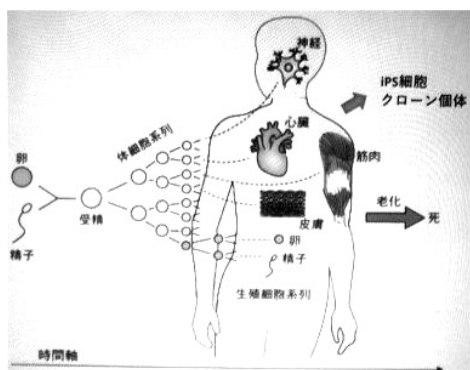


「遺伝子発現状態なし」の状態から、脱メチル化酵素、ヒストンAセチル化酵素+RNAにより、アセチル化して「遺伝子発現あり」から「タンパク質」を形成したり、ヒストン脱アセチル化酵素、DNAメチル化酵素、ヒストンメチル化酵素により、またメチル化して「遺伝子発現状態なし」の状態に戻ったりします。

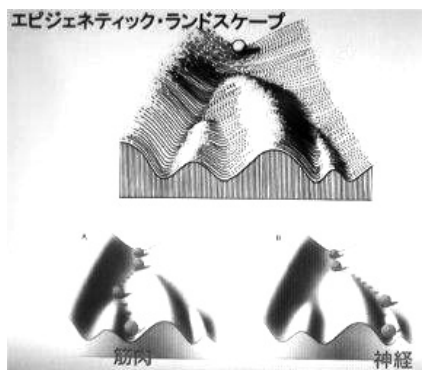
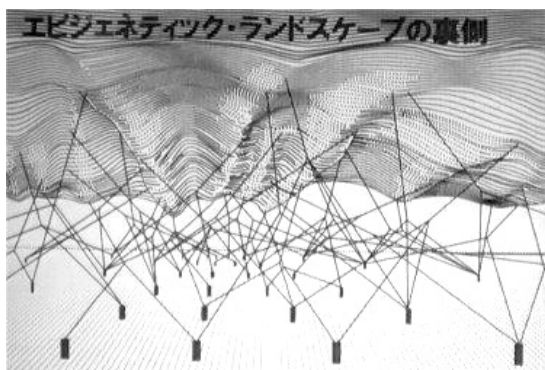
1個の受精卵からどのようにして生体ができるか？

卵子と精子が受精して、体細胞系列では神経とか心臓(内臓)とか筋肉とか皮膚を造りますし、生殖細胞系列では精子あるいは卵子を造って、受精すれば次の世代に繋がっていきます。全体としては老化して死ぬわけですが、ここで最近のこととしては、iPS細胞やクローン個体を造れば元の細胞は死ななくて、次に繋がるわけですね。

1個の受精卵からどうやって神経、心臓、筋肉、皮膚を造るのか、これはまさにエピジェネティクスの問題で、この過程を立体モデルに表したものが、ワディントンの「エピジェネティック・ランドス



「テープ」となります。



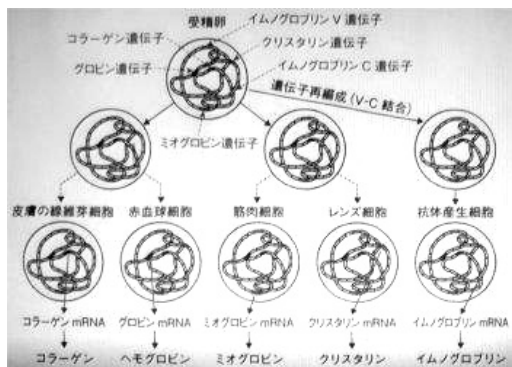
これは最近の考え方ですが、受精卵には種々の遺伝子があって、例えばコラーゲン遺伝子が発現すれば、皮膚の線維芽細胞ができませんし、グロビン遺伝子が発現すれば赤血球細胞ができません。



坂の上に玉があって、これがころがってあるものは筋肉になり、あるものは神経になるというもので、ランドスケープの裏側には仕掛けがあって、坂の構造をコントロールしているものがある。ワディントンが「エピジェネティック・ランドスケープ」を提唱したのは1957年なので、遺伝子の実体はまだ分かっていませんでしたが、彼は細胞の分化を制御するものを意識していたと思います。

こうなってきましたと、現代のエピジェネティクスは、右図の詳細な各系列ごとに多数の研究者が制御構造を研究しております。

つまり、遺伝子はDNA全体の2%しかないのですが、それらの情報から選ばれて発現することによって、いろいろな細胞ができる、すなわち、非常に細かいレギュレーション(調節)が入って各細胞ができてくるというのが今の細胞分化の考え方です。

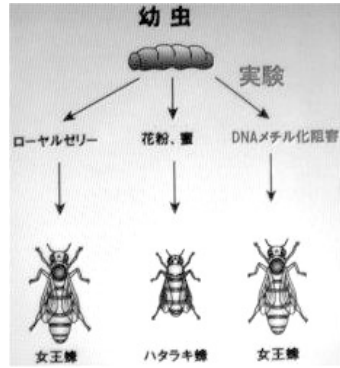


栄養とエピジェネティクス

先ほど申しましたようにエピジェネティクスは細胞の分化、すなわち筋肉を造るとか、神経を造るとか、そういう基本的な生命活動においての調節に関わっている、一つ一つの段階を明らかにしようとする研究分野ですが、実は栄養という、我々が毎日取り入れているようなものにおいても、エピジェネティクスは関係があります。

それについてミツバチを例に致しますと、ミツバチは社会性昆虫と言われて、分業が成り立っています。1つの集団は1匹の女王蜂と数千オーダーの雄蜂と数万オーダーの働き蜂で成り立っています。卵子が受精しないと雄蜂となり、受精した幼虫の段階では、雌である働き蜂と女王蜂は同じです。そして最初の3日間は両方ともローヤルゼリーを食すのですが、その後は花粉と蜜だけ食すと働き蜂になり、4日目以降もローヤルゼリーを食すと女王蜂となります。女王蜂の候補は数匹がいて、担当の働き蜂がローヤルゼリーを与えるると女王蜂となるのですが、その中の一匹がその巣の女王蜂として残ります。

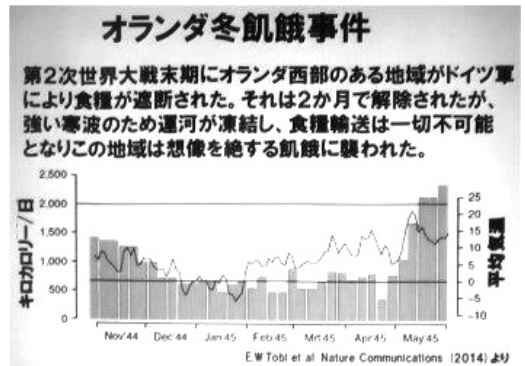
2006年にミツバチのゲノムが解読されたのですが、DNAにメチル基を結合させる酵素の遺伝子配列が見つかりました。シヨウジョウバエはメチル基を結合させる酵素をもっていないので、ちょっと驚いたのですが、ミツバチはエピジェネティックな酵素があるということが分かりました。



ただし女王蜂と働き蜂を比べますと、女王蜂の方がDNAにメチル基が付いている度合いが大きく、働き蜂の方がメチル基が付いている度合いが少ない。そこで一つの実験として、DNAメチル化阻害しますと、女王蜂に成長します。

ヒトではどうであろうか？

ヒトに関しては「オランダ冬飢餓事件」の研究があります。その

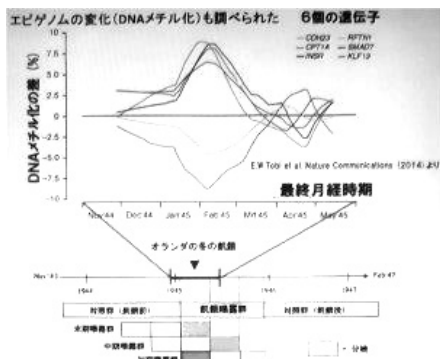


事件は右図に説明されており、例えば1日の食料は少量のパンとジャガイモと砂糖大根の切れっ端だったということです。これに関して、「オランダ飢餓事件パースコホート研究」では、低栄養状態にさらされて生まれた子供たちの追跡調査ですが、妊娠初期・中期・後期に分けて、低栄養状態におかれた母体から生まれた子供のエピジェネティックな影響を調べたものです。

妊娠初期では、心疾患、耐糖能異常、高血圧、肥満、脂質異常症、

情動障害があり、妊娠中期では、耐糖能異常、肺疾患、腎疾患があり、妊娠後期では耐糖能異常があったということです。

妊娠初期に胎児が低栄養状態におかれると、左図のようにDNAメチル化が通常よりもアップしたり、ダウンしたりする差が大きくなり、これがやがてはいろいろな疾患につながる事が分かっています。

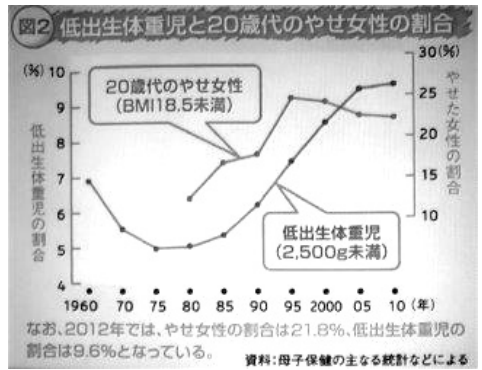


また「オランダ冬飢餓事件」とは別の角度からの研究で、「DOHAD説」というのがあります。イギリスの疫学調査から出てきたことですが、出生体重が低いほど、心疾患死亡率が高いということが

分り、「成人病胎児発症起源説」から「DOHAD (Developmental Origins of Health and Diseases) 説」となり、これは「健康と病気の原因は発生初期にある」すなわち、「受精時、胎生期および新生児期において形成されたエピゲノムが、出生後の環境と一致すれば健康に生活でき、マツチしなければ疾患のリスクが高くなる」ということです。

私がなぜこれを取り上げるかといいますが、1980年代から日本における2500グラム未満の低体重新生児が増え続けているのです。これは1980年代から20歳代のやせ女性(BMI18・5未満)が増えていることと非常に相関しております。

私の知っている婦人科の先生はこれを非常に気にしております、若い女性が皆やせ志向になっており、そうして生まれてくる子は皆体重が低くて、低栄養状態に入っているから。将来の糖尿病や心疾患に非常に罹りやすいという深刻な問題があります。一方厚生労働省は健康増進のため体重を増やすな、ということを行っています。



また、2018年8月の外国の雑誌ですが、「妊娠中の痩せすぎはそれなりの代価を伴う、日本人の低体重新生児が増えるとともに、どんどん小さくなっている。同時にその健康状態も危機に瀕している」という「DOHAD説」からの警告が載っています。

ニュートリエピジェノミクス・食物(栄養素)がエピゲノムにどのように影響するか？

これに関しましては、下図のように多くの報告があります。ただし、これらの論文の一つはマウス実験であったり、一つはバイオ細

多くの報告がある (山ほど)

- * コーヒーに含まれるポリフェノールがDNAメチル化酵素を阻害する
- * ポリフェノールはDNAメチル化を介して肥満を抑える
- * 葉酸、リボフラビン、コリンなどがS-アデシルメチオニンやS-アデノシルホモシステインのレベルを介してDNAメチル化を制御する
- * スルフォラファン(sulforaphane)や3,3'-ジインドリルメタン(3,3'-diindolyl-methane)などの植物化学物質がDNAメチル化の調節を介して前立腺がんの治療に有効
- * クルクミン(curcumin)はNr12遺伝子プロモーターのDNAメチル化を介して前立腺がんを抑制する
- * クルクミン(curcumin)はヒストンアセチル化酵素を阻害する
- * 腸菌はヒストンアセチル化酵素を阻害する
- * カロリー制限はヒストンアセチル化酵素を活性化することを介してがんを防ぐ
- * メチル基ドナー欠乏食はDNAメチル化、ヒストンのメチル化、アセチル化を阻害し、肝がんを誘発する
- * ビタミンDやレスベラトロールはncRNAのレベルを制御する
- * ザクロのポリフェノールがmiR-126の発現の促進を介して大腸がんの治療に効果あり

胞であったりで、個人差が多いので必ずしもそれを全部に当てはめて行くわけにはいきません。従って、今後の方向としましては、「Personalized Nutrition: 個人レベルの栄養問題」、すなわち個人ごとに腸内細菌、代謝等統合的にやっていこうというのがあって、「テラーメイド個人対応栄養学」という本も出ております。

エピゲノムが世代を超えて伝わるゲノムが世代を超えて伝わるのは今までの定説であり、エピゲノムについたマーク(メチル基など)

は卵形成や精子形成の段階で消去されると考えられてきました。ところが、エピゲノムが世代を超えて伝わる例が報告されております。「異端の学説を思わせる研究」として、その世代中に獲得していた経験や形質が子孫に遺伝する例が報告されています。例えばマウスの精子の2300以上の発現関連遺伝子において、ヒストンからメチル基を実験的に消去した(エピゲノムを変換)のですが、その異常エピゲノム状態が世代を超えて遺伝した報告があります。しかし、ヒトについてはまだ証拠はありません。

しかし、もしヒトで「世代を超えたエピゲノム遺伝」が起きるとしたら父親や祖父の経験がエピゲノムを介して子や孫に伝わる。他の例では母親を介している。

ということは
自分も父親/母親、さらに祖父/祖母のエピゲノムを受け継いで現在がある。さらに、そのエピゲノムに変化を加えて子や孫に引き継ぐことを意味する。

つまり

エピゲノムの一部は卵形成・精子形成におけるリプログラミングをすり抜ける。

何世代前から？ 何世代先まで？

しかし、もしヒトで「世代を超えたエピゲノム遺伝」が起きるとしたら右図のようになります。「何世代前から？ 何世代先まで」は今のところ全く分かりません。

「あなたはあなたの食べたもの、また、あなたの両親およびあなたの祖父母が食べたもので決まる」といえるようになるでしょう。

エピジェネティクスと病気

発がんにおけるエピジェネティクス異常、精神疾患とDNAメチル化、神経変性疾患とエピジェネティクス、自己免疫疾患とエピジェネティクス、再生医療とエピジェネティクスの接点、エピジェネティクス創薬等、この分野も今後大きな発展があるでしょう。

第5回 占星学と運命創造学の研究分科会報告Ⅱ

2020年の個人の運勢診断と日本と世界の情勢予測

講師 瀬尾 泰範氏

大宇宙(太陽系)と小宇宙(人間)が呼応する確かな証拠

2019年度の論文集「サイ科学」に載せていただいた私のレポートにおいて、これまでの日本人のノーベル賞自然科学部門受賞者24名について、どの星座に星々の配置が多いかを統計学で解析しました。一人につき太陽系の10個の星々(太陽、月、水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星)×24名＝合計240個の星々の配置個数は20個となりますが、乙女座に入る星の個数が圧倒的に多く40個ありました。この星座への偏り検定では、危険率0.1%(偶然で起こる確率は千分の一)で、有意に乙女座に星々が偏って存在することが分かりました。伝統的な占星学において、乙女座は潔癖で細かい神経が使えて忍耐力もあり、数理能力、分析能力、批評能力に優れているので研究者に向いている星座と言われていますが、この極端な偏りは私にとっても、予測できないほどの驚きの結果でした。占星学による診断は単なる経験値ではなく、統計学でも大宇宙と小宇宙が呼応することが明確

に証明されました。

※この後、参加者個人別に配布した「月運チャート(先天運)」に關しての見方の説明+「水星、金星、火星、木星、土星」の2020年1月～2021年半ばまでの星座運行表による、個人の月運診断(環境運)の見方の説明が行われた。

結果的に質疑応答も含めて個人の診断にかなり時間を取り、この後の「2020年の日本と世界情勢」の予測が短くなってしまうので、今回詳細な分析を追加して、解説致します。

西洋占星学の先端理論「ハーモニクス」

1970年代に英国の占星学者John Adey氏が提唱した「ハーモニクス理論」は、例えて言えば、脳波の周波数解析(α 波、 β 波、 θ 波等)で脳の機能状態が分かるように、ホロスコープが表すパーソナリティ波動(基本はHN1、9、それ以上も有る)を周波数解析して、才能も含めた詳細な分析が出来るようにしたものです。

別の例えでは、脳細胞の個数は天才も凡才もそれほど違いはあり

ませんが、天才はその細胞同士のシナプスネットワークが膨大であるのと同じように、1人のホロスコープ上で使う星々や感受点の個数はすべての人で同一ですが、それらの星同士が地球中心に形成するアスペクト(特定の角度)が多数ある方は、才能豊かな方が多いのです。私が制作したソフトで描かれる「アストロハーモニクスチャート β 」(10頁参照)は、これらの星同士のネットワークを周波数解析の技術で表示致します。

2020年の日本と世界情勢

西洋占星学は個人のパーソナリティや才能の診断だけでなく、個人の運勢診断にも使えますし、会社等の組織の運勢診断や、国家や世界情勢の診断も可能です。今回、私が開発した「アストロハーモニクスチャート β 」を使って、2020年の春分図(太陽が春分点に来た瞬間のチャート)の世界情勢の解析を行いました。西洋占星学においては、太陽が春分点に来たときが正月で、その瞬間におけるホロスコープを春分図といって、春分から次の年の春分まで1年間の世界情勢を占います。

10頁アストロハーモニックチャートβの春分図で上段9個の「ハーモニック・チャート」は「HN1」(周波数1)「ホロスコープ」[出生天宮図]と同じ)から、「HN9」(周波数9)までのアスペクトラインが表示されます。下段の9個の棒グラフはそれぞれの周波数における各アスペクトの強さを表します。

国家や世界を診断する際の、「HN1」から「HN9」までの各周波数のもつ意味を、象徴星と一緒にご紹介します。

「HN1」(太陽)・ホロスコープ(この場合は大元の春分図)と同一のもので、全体運を表す

「HN2」(月)・外交関係、対応力

「HN3」(木星)・経済発展、保護

育成能力

「HN4」(天王星)・紛争、独走路

線

「HN5」(水星)・文化的交流、

発想力

「HN6」(金星)・美的芸術能力、

調整力

「HN7」(海王星)・芸術的感性、

状況適応力

「HN8」(土星)・管理と抑制、努力

「HN9」(火星)・戦闘性、行動力

チャートのパワーが高いとみなすのは以下のどれか1つでも当てはまる場合です。

- ① 左から一番目の棒グラフ(0度のアスペクト)だけで30以上
- ② 左から一番目と二番目の棒グラフ(0度、90度、180度のアスペクト)の和が60以上
- ③ 4本すべての棒グラフ(0度、90度、180度、60度、120度、51・43度の整数倍、72度の整数倍のアスペクト)の和が120以上

以上の基準で各チャートの棒グラフ4本の高さを見てみますと、源チャートの「HN1」を除くと、「HN4」、「HN8」と「HN9」のパワーが高くなっております。

「HN4」にあたるアスペクトが強い時期は、個人の年運チャートでは「人に厳しく、また何事も戦闘的になる時期なので、対人関係で対立が起こりやすいでしょう。また、仕事や生活上で変化が起こりやすいようです。トラブルが起こったり、比較的不注意やイライラによる事故や病気に遭いやすい修行の時期」となり、世界情勢に当てはめれば、国家間での国益フ

アストによる対立・紛争や民族間での宗教等による対立・紛争が増えるでしょう、となります。

また、「HN8」にあたるアスペクトが強い時期は、個人の年運チャートでは「自己管理と抑制が必要な時期で、この時期にどれだけ学習、努力するかで将来の発展につながるか否かが決まる時期」なので、世界情勢に当てはめれば、国家間や民族間でのいろいろな交流が抑制されて、各国の国内における発展を促す努力が必要になる、ということでしょう。

さらに、「HN9」にあたるアスペクトが強い時期は、個人の年運チャートでは「行動力と戦闘力がパワーアップし、スポーツ・勝負事にも行きたくなる時期」なので、世界情勢に当てはめれば、やはり国家間や民族間での競い合いが高まる時期、ということになります。

経済発展と保護育成を象徴する「HN3」と美的芸術能力と調整力を象徴する「HN6」のチャートの棒グラフは全体として低めなので、前記のどちらかというところとネガティブな診断をポジティブな方向に補うパワーが弱いので、やはり経済

面にも問題が起こるでしょう。

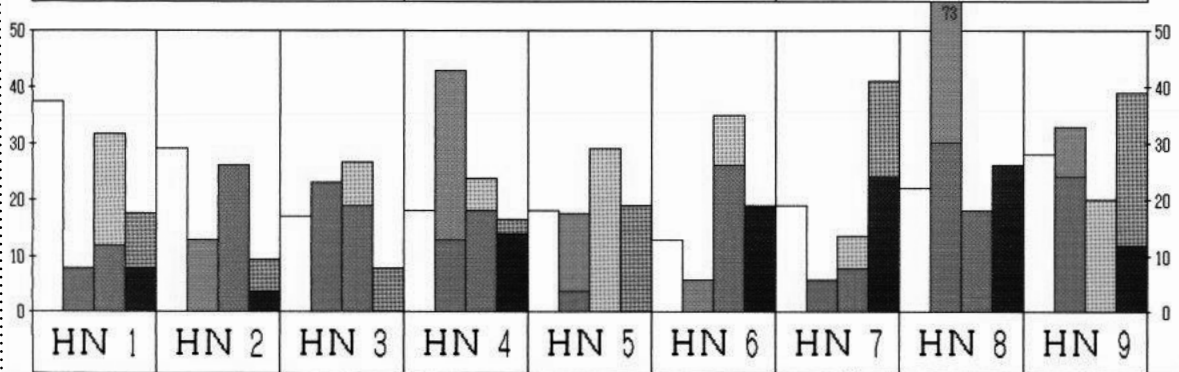
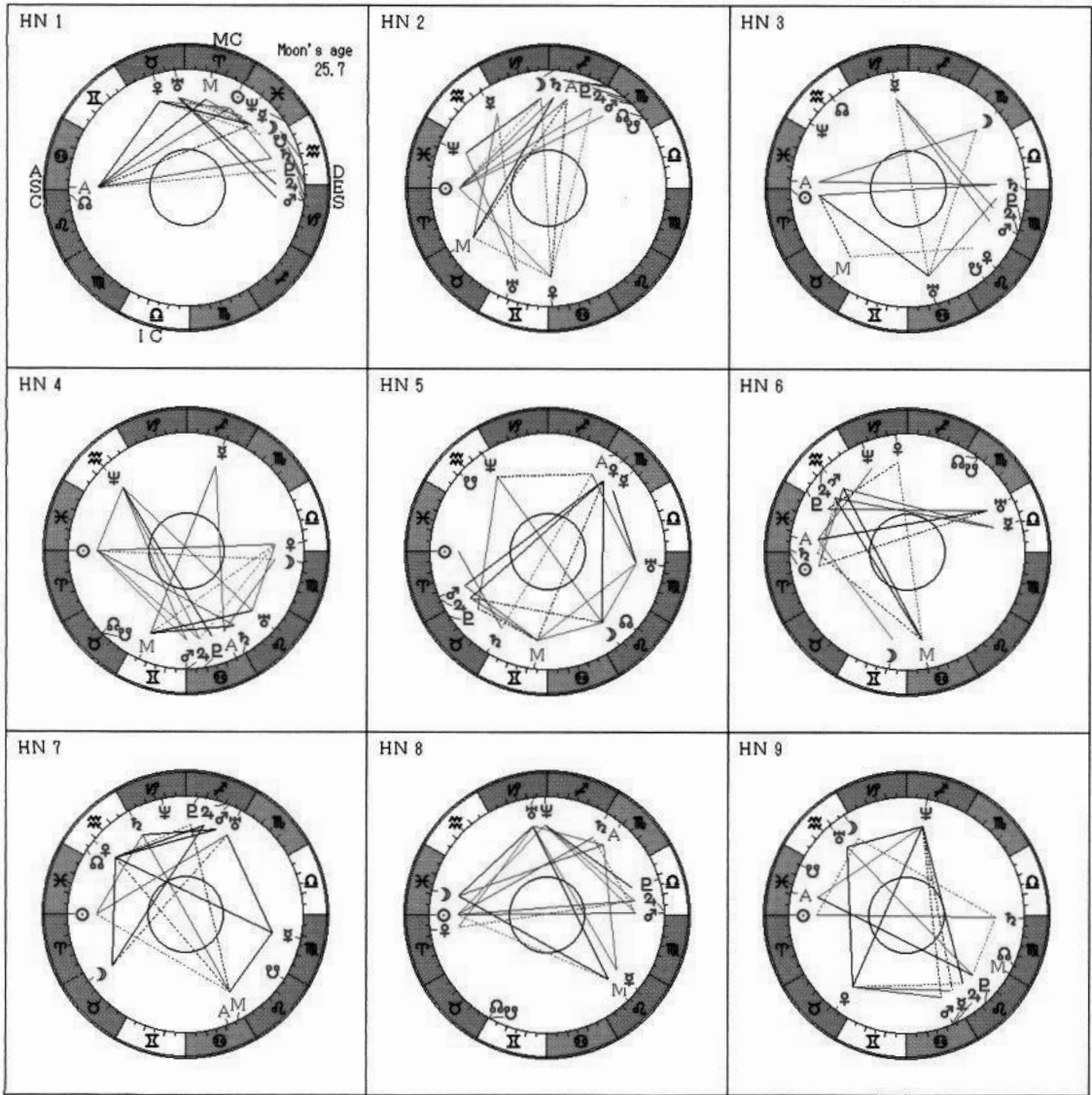
1月13日(月・祝)の分科会のときは、新型コロナウイルスの報道はされていませんでしたので、パンデミックの予測はしておりませんが、やはり今年の「アストロハーモニックチャートβ」による春分図からも、2020年度の世界情勢は経済面も含めて、国家間の対立や国内での抑制も絡んで厳しいものになります。

ところで7年間〜十数年の期間の世の中の大きな流れは、外惑星(天王星、海王星、冥王星)の動きに象徴されます。天王星はそれが通過中の星座が象徴する分野に、大きな変革や軋轢を生じさせます。

2019年1月の第4回占星学と運命創造学の研究分科会でも予測しましたが、2019年3月から天王星は経済と金融の星座、牡牛座に入りまして、世界は2国間あるいは多国間における経済面での対立が深まる傾向が見取れます。前記「HN1」における源チャートの春分図では、牡牛座にその支配星(大家さん)の金星が、水瓶座の月とハードなアスペクト

《Astroharmonic Chart β I》

2020-3-20 12:50 (資料) 35° 41' N
 2020-03-20 12:50 139° 46' E
 ID. 110200216001D



である90度を形成しているの、これも経済的対立を深めます。

米中貿易戦争、日韓対立、英国のEU離脱、ドイツ銀行の経営危機等今後懸念される問題が山積みで、(ここから分科会後追加)今年初めに中国で未知の感染症として報道され、現在は世界に拡がりパンドミックになった新型コロナウイルスはさらに世界経済全体を下降させるでしょう。

2026年に天王星が牡牛座から双子座に抜けますが、今年からそれまでの期間に世界恐慌が起こる懸念があります。(図らずも新型コロナウィルスのパンドミックがその引き金を引きそうです。)

覇権を象徴する冥王星は2008年12月から山羊座に入り、春分図は山羊座の24度あたりで、火星、木星、土星とも合(同じ位置)を形成しています。山羊座は政治や社会秩序に関わり、冥王星に絡む星々も強力なパワーをもっており、火星と木星はほぼ完璧な合なので、争いや戦いが促進される年になりそうです。

さらに問題なのは、地象の星座の山羊座に火星、木星、冥王星、

土星が近接しているのは、地震も招きやすい配置なので、日本では関東、東海、東南海、南海等の大地震にも警戒が必要です。

海王星は2012年2月から2025年3月まで、自分が支配星(その星座の大家さんの立場)である魚座を通過しています。支配星が支配星座を移動中はそのパワーを1番発揮すると言われ、海王星が魚座に入ってから既に8年が経過しておりますので、社会や世界に対していろいろな影響が出ております。悪い面では水害が増えたり、「フエイクニュース」が多発することがありますが、海王星は「サイ」や「スピリチュアル」を象徴する星なので、人間の霊性や本質についての関心や探求が深まってまいります。

日本では2011年3月11日の東日本大震災をきっかけにして、「人間にとって本当の幸せとは何だろう?」というテーマや、人々の「絆を深めたい」という想いが強くなっております。

世界的にスピリチュアルな研究やセミナーや催事、組織も盛り上がっており、欧米では「マインドフ

ルネス」として改めて「瞑想」の心身に与える良い効果が伝えられたり、日本でもヨーガや仏教、神道や他の宗教に対する関心も高まっております。

日本サイ科学会も人間の霊性や本質と潜在能力について、自然科学を土台にして探求している学会であり、見えないものを探求・測定し、理論づけるといふ、ある意味では二律背反の困難さがあるのですが、自然科学の迫る方向性としては必然の道であり、これから十分時間をかけて探求することで真理が見えてくるでしょう。

2015年9月に国連本部にて採択されたSDGs (Social Development Goals: 持続可能な開発目標17項目)は、人類のより良い未来を創ろうという意志ですし、日本における「働き方改革」も真に意義あるものに向かえば、方向性は同じだと思います。

「禍福は糾える縄の如し」という言葉のように、令和2年度は厳しい時期だとは思いますが、海王星の示す、より精神的、霊的に高い生き方を目指す流れもあり、今後人類はいろいろな経験を積みな

がら、科学と同時にスピリチュアルな面でも発展していくことは間違いないでしょう。

第四四五回関西日本サイ科学会研究集会報告

「目に見えない『場』の法則
〜未来を動かす「場」という妖怪」

講師 水口 清一氏
(Aーマンダラ研究所長)

とき…令和2年2月15日(土)
ところ…阿倍野市民学習センター

講演内容

今は米中戦争のまったただ中ですが、この米中戦争が世界を変えていきます。2020年は新時代のターニングポイントとなるでしょう。時代はものすごい勢いで未来に進んでいます。

ところで、「場(ば)」とは何か?一言でいえば、なんらかの力によって満たされた空間のことです。

といつても何のことかわかりませんね。存在の哲学である科学が、「場」という概念を切り捨ててしまったからです。「場」に注目すれば、未来に対処する方法が見つかるかもしれません。

時代は「場」で動いています。しかし、「場」が何であるかを理解できなければ対処のしようがありませんね。たとえ「場」が何たるかを知らなくても、すでに多くの人は「場」という見えないエネルギーに飲み込まれているのが現実です。「場」には型があり、その型が共鳴しながら未来に進みます。「場」、それは目に見えない妖怪のような存在ですが、「場」には階層があります。

宇宙の「場」、人類社会の「場」、国家の「場」、会社の「場」、地域社会の「場」、家庭の「場」が混沌と融合して、それが「意識場」のエネルギーとなり社会は渦巻いています。陰陽師、忍者、孫子、みんな「場のマネジメント」の達人です。華僑商法も同じ、まさに「場」を読みながら「場」に乗っているのです。彼らの共通点は姿を見せない陰の主です。

「今」の延長線上では未来は見

えてきません。しかし「場」を知

ることで未来が見えてきます。社会システムは、人工的(機械的)な組織から有機システム(生物系)に移行して行きつつあります。情報化社会とは「場で動く社会」です。意識は「コミュニケーション」で成り立っています。お互いの意識は共振、共鳴しながら、たえず変化しています。その場所(物理的な場所と心理的な場所)を「意識場」と私は呼んでいます。「意識場」の情報交換は「コミュニケーション」です。この「コミュニケーション」のあり方が、組織を活性化したり不活性化にしたりします。

生体の情報を統合しているのは「脳」ですが、同じようにどんな組織にも必ずリーダーが存在します。今までの機械的(縦型組織)な組織から、生物的(横型組織)に移行したときのリーダーシップの執り方は全く違ってきます。その研究モデルが生物系ですが、生命は臓器の寄せ集めでなく「生命場」で動いているのです。

これからの組織は、生物(有機システム)のような神経系(情報系)のダイナミックな動きの中で、たえず変化に対応できるように進

化していくでしょう。

◎水口清一(みずぐちきよかず)氏のプロフィール

1960年代より人間の無限の可能性を引き出すため、右脳開発や速読などの加速学習法、夢の実現法、超能力やシンクロを起こす方法などの潜在能力開発、未来予知法、「意識場」による次世代の会社経営・管理法など、先駆的なセミナーやプログラムを開発してきた。大学時代は探検部に所属、全山の山々を探索。熊野で言霊と禅の行を修め、東洋の神秘に触れる。東洋思想にもとづく独自の視点にもとづく未来予知には定評があり、テレビ、新聞、週刊誌、ラジオなどマスコミでも取り上げられた。

「夢のプラットホーム」を主宰。AIマングラ研究所・所長。潜在能力の開発、催眠法、イメージコントロール、超意識、言霊、数霊場のマネジメント、創造性開発、瞑想、東洋思想、コミュニケーションづくり、未来予知、夢の実現法などを専門分野として先駆的なプログラムを開発。セミナーや企業研修など幅広く活動している。

著書に「潜在意識の大活用」、「バ

1チャル社会と意識進化」、「未来予知能力の開発」、「人はみんな魔法使い」、「人生は魔法の世界だ」、「90日で願いが叶う魔法の本」、「これから日本の時代になる理由(わけ)」など多数。



第四四六回関西日本サイ 科学会研究集会報告

前世療法の現場から宇宙人、
霊界、天界、未来世、胎内記憶：
見えない世界のリアル

講師 根本 恵理子氏
(前世療法家、催眠療法家)

講演内容

前世療法とは、催眠誘導という言葉の技術で、脳波を深いリラックス状態に導き、普段記憶に上ることはないけれど残り続けている「記憶」にクライアアント自身がアクセスしてイメージ化し、意識の解放や気づきを導く手法です。

見えてくるのは肉体を超えた記憶である「過去生」だけではありません

ある「内部刺激の場合(イメージ)」は先(前)に意識することになる、と考えている。この仮定を証明する為の実験には、有名な山本幹男、小久保秀之、河野貴美子らの遠当ての実験結果(2002, ISLIS, 20-2, pp.331-336)がある。遠当てとは、送信者の意念で、数メートル以上離れている受信者(後ろ向き)に対し、非接触で、急に激しく後退させる(倒す)現象で、サイ現象の一種(マクロPK)である。2重盲検法試験を用いており、40年にわたって訓練を続けてきた師範同士の場合について、受信者と送信者の間の反応の時間差を調べたところ、出現頻度の3つの大きなピークがあった。差が0秒のピークの両側に、-42秒と+37秒の3つの山(ピーク)が生じている。またそれぞれは統計的に1%有意であった。これは、本報の提案として、…意識が「壁」を通る時に、時間がかかる…を用いれば、「行為」が先で「意識」が後(通常現象の場合)と、「意識」が先で「行為」が後(イメージによるサイ現象の場合)を意味している(表している)と判断する事にした。その他として、超常現象(念写、念球など)の場合について、被

験者の意識とターゲットとの間の時間差を調べたところ、筆者らの透視・念写実検並びにメタルPK実験の場合にも、時間差の値の大きさは異なるが、同一傾向の結果が現われている。

(3) 生体から放出される陰・陽のspin対

不安定性を持つ原子核内の中性子に、直接に働きかけることが出来るのは、生体の皮膚(チャクラ、経穴)から放出されるスカラー波(雲状SPI-spin対群)であろう。臨床を伴う伝統的な東洋医学、ならびに近年の本山博・博士らの測定・実験(経穴)によると、体内の経絡を流れる気(サイ)には、陰経(陰の気)と陽経(陽の気)がある。気(サイ)放射時にはこの両者が拮抗対峙して相殺ゼロが形成され、横波が縦波に変化して、スカラー波(テスラ波)になって放射されるのであろう、と判断する。体外に出た雲状SPI-spin対(光子)群は、陰と陽とが巴型になった中性の状態なので、原子核の内外にある電子等に影響される事が無く、直接原子核内の中性子に達してエネルギーを得て、念力(PK)を遂行させているのであろう、と判断している。

ません。私達は多次元の存在であり、人間というあり方は、そのほんの一部の現れであることが、数多くのセッションを通してわかってきました。前世療法の現場で遭遇した、過去生「以外の」レアケースをご紹介します。チャネリング、ヒーリング、テレパシィ、リモートビューイングなども共通する、「見えない世界」と関わるテクニクについてもお話ししました。意識の扉を開けることは特殊なことでも難しいことではありません。重く暗いイメージがつきまといっていた「前世」を、明るく楽しく分かりやすくお伝えできるよう心掛けています。

なお講演会の前後に大阪に滞在し、前世療法の個人セッションを受け付け、実際に催眠、前世を体験する貴重な機会となりました。ヒーラーやチャネラーの方にとっては能力を使いこなすためのヒントにもなったのではないのでしょうか。

◎根本恵理子(ねもとえりこ)氏のプロフィール

前世療法家、催眠療法家(ヒプノセラピスト)。東京大学文学部

心理学科卒。心理学者を目指すも挫折。地方公務員として勤務のかわら国際中医師A級取得。東洋医学サロンを準備中に前世療法と出会い人生が変わる。2011年より横浜市鶴見区で前世療法サロンPADOMAをオープン。自分自身の見た前世を報告したブログ『私の前世療法』が人気に。2012年より体験型の前世療法講座も開始、日本全国各地で講演活動。2015年に『月刊ムー』上で辛酸なめ子さんの漫画取材を受け、『魂活道場』に掲載、後に単行本化。2016年LAで初の海外セミナー開催。同年NYで前世療法の第一人者ブライアン・ワイズ博士の前世療法セミナー受講。アベマTVで催眠誘導の実演生放送。2019年4月、初の著書『自分で自宅で見るセルフ前世療法(ダウンロード誘導音声付き)』を発売。11月東京タワーと港区三田へサロン移転、東京と神戸の2拠点生活を予定している。著書に『セルフ前世療法』(クラブハウス社・1500円税別)、『魂活道場』(学研プラス・1200円税別)など。



念力(透視)現象生起時の意識(ASC、無意識)

栗田 慶祐

(1) はしがき

マクロ念力(PK)は、心(意識、無意識)と物質が、直接に情報・エネルギーを交換する現象であり、仲介する物質をサイ(気)と言う。古くから、広く知られているが、心が不明なので、現在でもその機構を説明する事はできない。本稿では、PK現象(透視)に及ぼす意識の役割について、定性的な立場から、初歩的な検討を試みる。

(2) 意識と無意識の役割

意識は大脳皮質が司る理性・知性である。意識{1}は移動型の陽(+)で魂(コン)、意識{2}は固定型の陰(-)で粕(ハク)、一般には前者は意識、後者は無意識という。心は意識と無意識から構成されている。サイ現象は、多くの場合、イメージ(意念)の指示に従って生起してくる場合が多い、この時、意識と無意識の果たす役割が問題になる。

山下裕人師(少年時)の透視を視る。透視は肉眼を用いないで物を視る行為である。遮蔽物を用いて肉眼が機能しない様にしておいてから、「視よう」と努力しないと透視現象は起きてこない。具体的には動機付け、意欲、感受性、興味(好奇心)、リラックス集中、自然な雰囲気、ゲーム感覚、等についての準備が必要であり、これを意識が担当している。呼吸法や瞑想法などを用いて、脳活動の自由度を制限して(脳波を7~8Hz程度に)、イメージを続けると、無意識が機能してくる。「視たい」ということで、ゆっくりした呼吸に合わせて、意念を集中する。暫くすると(約5秒程度)、サイ(気)の光が向側から「パーン」、「パーン」と断続的にやってきて、額の前(前頭葉)付近に映画のスクリーン状のメンタルスクリーン(幻覚)を「スー」と形成させる(出てくる)。あとで、総合判断すると(推定)、この光は陰・陽の生体内を流れる微細身素粒子(サイ)と同種であるらしい。この上に透視対称物を写し出して、心で、視ることになる。

対称物の判断が容易な「画像、文字」の場合

には(簡単な文字、数字等)、肉眼と同じように見える(多分、右脳の新皮質利用)。複雑であり、判断が難しいと思われる「難しい画像や文字」(左脳の判断が必要)の場合は、鏡像(左右が逆)にみえる場合が多い。しかし、まれにはレンズ状(倒立像、鏡が上にある)になる事もある。この時、意識してみる肉眼視の場合を「此方から視る」とする。非肉眼視の透視の場合は「向こう側から視る(つまり鏡像)」であり、両者を隔てる「壁」の存在が判断される、意識の向こう側にある「壁」を介して、無意識の世界の在ることが推定できる。このメンタルな「壁」を、通常は、抗暗示障壁と呼んでいる。

一般の場合の一例として、カリフォルニア大学脳神経学者のベンジャミン・リベット(1990代~現在)の場合をみる。品物を動かそうとする意識と筋肉や運動野の神経活動との間の時間差(タイミング)を測定したところ、「動かそうとする意識」よりも「実際には、0.35秒先に活動し始めている」、という結果を得た。慶応大学のロボティクス学者の前野隆司は、手のひらの触覚の研究において、タッチとしての接触(意識に昇らない)と把握力(意識している)の関係の実験・解析から、結論として「無意識の触覚が先にある。意識とは、無意識が処理した事柄を結果として把握する為の装置である。つまり意識とは脳中の幻想(illusion)である」と言う意味の「受動性意識仮説」を提案している。さらに認知科学者の茂木健一郎は「意識は行動を後追いつける幻想ではあるが、クオリア(質感)をもっている」と主張している。

これらの現代科学(通常現象)の研究によると「意識は行動を0.35秒後追いつけている」という。これは行動の情報が「壁」を通るのに0.35秒かかったのであろう。これに反し、まず、イメージ(内部情報)した後で、「壁」を介して行動に移る場合は、逆に約0.35秒先になると考える。つまり、意識{1}が「壁」より上の脳内新皮質にある通常の「外部刺激の場合は」後で、意識{1}が「壁」より下の無意識域(旧皮質、古皮質)に

れる。ネズミにおいても、「工事前、船の沈没、火事発生があると、逃げたり大移動する」という話が古来からあり、これは地震だけでなく、色々な災害をも予知する高い能力があるのではないかと思われる。

カラスも、地震前には異常に騒ぐ、攻撃する等の異常行動をとると言われているが、鳥類の中では一番脳が発達しており、地震への感応も鋭いのではないかと思われる。また、脳細胞内には磁石があるが、これにより磁気の異常を呈する地震等の感応度も高いのではないかと考えられる。

ゾウの津波を察知する能力については、スリランカ地震時に既知のとおり津波発生前に高台等に逃れ、被害に遭っていないと証明されているがその理由は解明されていない。

これら動物の、一つ一つの地震事例をみると、「地震発生前に、動物達は異常行動をしている」という結果を出さざるを得ないのではないか。検証をするうえで、動物予知の難しさはあるが、動物と常に接している飼い主、動物の飼育員等は日常の動作、挙動から異常に気がつき、後講釈ではあるが「やはり、予知していた」と評価しているようである。ただし、動物の異常に気付くべき人間も動物であることから判断に幅があり、例えば地震に敏感であり注意を払い動物の行動にも意識を払っているタイプと、何も感じない、このことに無関心なタイプでは、結果が大きく変わって来ると思われる。

また、動物界の頂点に位置する人間は、地震予知が出来るかということになるが、昔から世界各国の霊能者、占星術師の一部の人達により予知・予言されているが、結果についてはまちまちで判断は分かれる。この様に、人、動物共に地震予知についての事例等が多いが、評価については難しい。従来、伝えられている「動物が、鳥が騒いだ、逃げた」等では、他の事例でも考えられ、地震予知と結びつけることは難しいことから、今後の動物による予知についての検証方法としては、地震計と同様に同一地区(施設)に、同一動物を24時間体制で、長期間計測することと、動物体の心拍、血圧、血液成分を適時検診し、異常時前後における動物体の生理と、日常生活の観測結果を、地震計等によ

り観測しているデーターと比較検討をしていくことにより、いわゆる科学的な裏付けのある「動物が予知をする。」となっていくのではないか。

まとめ

ネズミ、ゾウ、犬等の動物及びナマズ等を含む魚類や、過去の事例の検証では、確かに地震発生前に異常な行動をとっている。しかし、動物である人間が各予知現象を見ても、その現象を判断できないケースから、全ての「動物は予知する」と言い切ることは難しい。だが、地震発生前には多くの動物、魚類が異常行動をとり、また雲等にも異変が見られ観測もされていることから、検証の仕方によっては地震予知は可能といえる。ただし、人間だけの予知についてみると、昔から世界中の霊能者、占星術師が地震について予知、予言しているが、結果についてはやはり判断が分かれるところである。

また、霊能者某氏の話で昆虫、鳥等に「高い所に巣を作りなさい。」と教え、水没しないですんだということと、低いところの巣作りは地震等が多いとの話についてみると、これは我々人間が認識できない摩訶不思議なことと判断せざるを得ないが、巣作り等の現状を確認すれば有り得ることであり否定は出来ない。

今後、「動物の地震予知」を予知学として位置付けするには、例えば、動物達が電磁波を察知して異常行動を起こしても、これが地震によるものなのか、他の電気製品等の原因等によるものなのか、また察知しても発生日月日の特定ができるのか、判断が難しい。そこで、多くの科学的データーを宏観異常現象観測として長期に亘り、積み重ねて因果関係の説明が明らかにできることと、前兆現象があっても、類似の現象との比較検証が可能でなければならないことは、地震予知の条件となるであろう。

また、動物等の行動では、平時の特異行動と異常時での行動パターンについて、規則性があるか、特異の行動を呈する共通現象等があるのかを明確な形で説明、提示することが必要であり、これ等の検証が無くては非科学的なものとして扱われ、「そういえば」的な伝承に止まざるを得ない。そのため、多岐にわたる現象を科学的見地から解析し「地震予知学」までに位置付けして行くことが必要と思われる。

安定等の症状が目立った等の動物診断がされた。このことは、地震は人間の精神面に影響を与えるが、同じく動物にも大きな影響を与えているということが分かる。

2004年12月29日に、スマトラ島沖にM9の地震が発生し、これに伴う津波では、インド洋沿岸諸国で30万人以上、スリランカでは2万人以上の犠牲者が出たが、ヤラ国立公園内に生息している野生動物（ゾウ、ヒョウ等）は、津波が発生することを事前に分かっていた高台に逃げたためか、これらの死骸は発見されていないと報告されている。2007年3月25日発生 of 能登半島地震では、輪島市門前町地区で本震前に「バリバリ、ドン」という異常音を住民が確認していたことがあった。

さらに、「ここ2～3ヶ月能登半島西側で魚が釣れなかったので、地震が起きるのではないかと思っていた」との話もあった。これらは、事例報告であるが、国内の民間に言い伝えられている、主なものを述べると、①井戸から、音が聞こえたり、水位が著しく変動する。②龍のような雲が、立ち上がる時は地震が近い。③朝焼けの、太陽の光柱現象は前触れ。④夜間、昼間のように明るい時（発光現象）。⑤日中、カラスの大群が移動、異常に騒ぐ時は地震の可能性がある。⑥大地震前には、磁石に付いていた鉄片が離落する。⑦地震の前には、ネズミが居なくなる。⑧雉が騒ぐ時。⑨海、川等で魚類を見なくなり、又、地震の前は大漁あり。⑩ナマズが多く獲れる、多く跳ねる時。等の地震を予知していると思われる多くの伝承がある。

2011年3月11日に発生した、東日本大震災後に調査を岩手県、宮城県、福島県の動物関係者に聞き取りを行ったが、この震災が余りに大きかったためか、記憶として残っていないようであった。また、多くの動物達が飼い主とともに流されてしまい、聴取することが困難であった。この地震については、従来の地震と異なり、地震計にも示されているように、前触れがなく突然大震災が起きたため、人はもちろん動物たちも予知できなかったのかとも考えられた。

日本だけでなく、世界での地震前の動物達の異常行動についての報告は、殆どが似通っているが、これらから「動物達が予知行動をしている」という解釈をすることが出来ることと、各国

での諸現象の申し合わせは有り得ないため、そこには作為的意思が入り難いと考えられることから予知現象を肯定的に考えたい。宏観異常現象を否定論的に見れば、例えば、1975年中国海城では、前震である微震が続いていたから、地震を事前に察知していたとの解釈がされている。しかし、宏観異常現象観測による地震予知を否定するだけでは、震度計測定等を含む総合的な地震の予知学としては進歩していかないことから、諸現象を課題として取り入れ、科学的に解析していくことにより、地震予知としての位置付けが出来るのではないかと思慮される。

異常な雲が見え、地震が発生しそうだとの視覚的現象判断により予想された時、結果として数多くの地震発生を的中させている。だが、アカデミズムでは飛行機雲を含めた他の雲との鑑別が困難であると、地震雲を否定評価している。絶対的な肯定、否定から入るのではなく、なぜ地震雲の発生が起るのかを、科学者としては検証しなければならず、それがなければ地震予知の究明には程遠くなっていくと考える。

犬・ネコが、他の動物より地震に強く感応するというデータがあるが、これらは常に人間の側において、観測しやすいために、データとして高い数値になったとも考えられるが、各地の報告をみれば、確かに予知していると思われる結果が出されている。

なぜ、人以外の動物に感応する能力が強いのかは推定の域を出ないが、犬と人を生理的能力で比較してみると、犬は人の3～4才位の知能を持っており、ある程度の認識が可能である。聴覚は、人(16～20,000Hz)、犬(65～50,000Hz)であり、犬は高い音に敏感で、人の何倍もの高い能力を示している。嗅覚では、嗅球細胞が、人(500万個)、犬(1～2億個)から、臭いに対して犬は桁外れの能力を持っていることになる。そこで、これら以外の能力を含めて、犬は地震に対して、人には感じない特別な能力を持っているのではないかと推定される。

ナマズでは、他の魚類と比較し生理的にも鋭い感覚を保持し、地震への感応は鋭いと思われるが、「古来から、ナマズは地震を感じる」という伝承としての位置付けからも、ナマズについては今後研究の必要性が十分にあると思慮さ

利用して観測し予測する。④ナマズ等の魚が地電流を、ハト、カラス等の鳥は磁力を感じるにより予知する：地下岩盤に電圧が発生すると、地表に電流が流れ地電流となるため、これを感じて「ナマズが暴れる」「ヘビ、動物園のワニが騒ぐ」「ミミズが地表に出てくる」等の特異現象が起こると考えられている。また、ナマズが、電気感覚に特に敏感な能力があるとされるのは、餌である小魚の捕食と、縄張りに対抗するため同類のナマズの電位を感じる感覚が(浅野はナマズの電気感覚が、10～20Hzの電場に強く反応するとしている)、他の魚類より鋭くなっているためではないかとされている。この時、地下岩盤に電圧が発生すると異常に磁場が発生することから、ハト、カラス等の感磁能力の強い鳥は、逃げる、騒ぐという状態になるとされている。この鳥、魚の状態を見る、または観測することにより地震発生を予測する。⑤動物による予知：地盤構成岩石の花崗岩等が、圧電効果により電気エネルギーを発生させ、地中の岩石層から電磁波が発生する。そして、動物達はその電磁波を察知し地震を予知するのではないかと考えられている。

1988年12月マグニチュード6.8、死者2万5,000人を出した、ソ連アルメニア地震の地震予知調査では、犬36%、ネコ17%、鳥15%、ネズミ9%、魚5%が地震を予知していたとされている。

麻布大学太田教授は、地震前に異常行動を起こすのは動物が微弱電磁波を敏感に感じるためとした実験を実施しており、感じる度合いは犬20%、ネコ30%の割合であるとするデータを出しているが、さらに情報を集計する必要があるとしている。

発生例からみると、1855年の安政大地震直前では、ナマズを獲ろうとしたが、騒ぐため獲ることができなかったことから、「地震がある」と記録されている。中国では宏観異常現象の調査を、30年前から続けているといわれており、その中でハト観測では、ハトが夜間でも騒げば異常ありとしている。また、ネズミが群れで移動、時期はずれのカエルが出現、魚が浮き上がるなどのケースがあるのは、地震が発生する予兆であると観測がされている。

1923年9月の関東大震災では、大砲のような大音響があり、大島の噴火が夜中にことさら

目立っていたと記録されている。1975年中国の海城で、マグニチュード7.3の地震が発生したが、中国国家地震局が宏観異常現象として、動物の異常行動のデータを集め、予知に成功し被害を最小限に止めることができています。しかし、翌年の唐山地震では理由は不明だが予知は失敗し、24万人以上の犠牲者を出している。

1944年のカリフォルニアでは、犬が突然意味も無く吠え、猫は異常に臆病になり、鳥はカゴの中でこれも異常に飛び回っていたのが観測されている。また、1999年のギリシャ、トルコの地震時にも、同現象が起きていたとの報告があった。

1993年5月静岡県伊東市の群発地震では、Aバナナ・ワニ園のワニが騒ぐ、源泉温度が上昇したと観測されている。同年7月の北海道奥尻島地震では、多くのネズミ、ヘビが出現する等の異常が見られた。

1995年1月17日6,000人以上の犠牲者を出した、M7.2の阪神大震災では、①神戸市西区にある家の周辺から、カラスが2週間ほど前から居なくなった。②S水族館のイルカが、水中から逃げようとする等の異常行動があった。③明石海峡大橋付近海域では、小魚の死骸が多く浮き上がった。④1ヶ月前の徳島県南部では、イカの記録的大漁があった。⑤神戸市立O動物園では、2～3日前にアシカが異常行動(地電流を、人は20V/m程度で反応するが、アシカは、0.5V/mでも敏感に反応するためと思われる)を、起こしていたのを館長が確認している等、多くの異常現象が報告されている。そして、地震後にK市獣医師会に、「動物の地震予知について、何か感じることはあったか」のアンケート調査を実施した結果、①鳥が一晩中鳴いていた。②犬が吠えたり、鳴いていたりしていた。③犬が、地震前夜は寝ていなかったり、暴れたりして行動が普通ではなかった。④猫は怯えて、押入れから出なかった。⑤普段おとなしい猫が、地震発生の数時間前に暴れだした等の回答があった。そのなかで、地震の2日前から犬の動きがおかしいので、地震が来ると思い地震に備えた人がいた、との報告がされている。

また、「地震の後」のアンケートでは、①余震に怯える犬が多かった。②犬猫のストレスが原因と思われる、食欲不振、下痢、嘔吐、精神不

ル街の巢へ帰れるのか。そして、渡り鳥では、他のグループと連絡もしないのに、時季、月日を同じく、しかも、遠い距離の道を間違えず同一種族と一緒に移動していることについて、気温、風、太陽を見て、果ては星を見て移動する等と説明がされているが、渡り鳥達にそれだけの天文学の知力が本当にあるのかと考えてしまう。これらについて、本能だと一言でくくってしまえば簡単だが、今の科学は一応、答えを出しているように考えられるけれど、十分に説明出来ないことが多くあり、先ほどの「大霊の声で、高いところに巢を作りなさい。一緒にこうしなさいと言われ、動物達が素直にそれに従い行動する」と解釈する方が、適切な回答になるのではないと思われる。

幾つかの事例を挙げてみたが、動物達は生活の中で生死が日常にあるため、火事、地震、また敵の攻撃を未然に防ぐためのある種の能力を必要とし、そして家族、種族の下へ帰り、子孫、種を増やしていく行為に必要とする、人間から見たならば超能力と言われるものを普通に持っているが、その能力は人間が進化過程で遠い昔に忘れてしまっているものなのであろう。

次に、地震についての動物予知を含めた宏観異常現象についてみると、地震国である我が国は、地震の研究及び観測を実施しているが、冒頭に述べたように未だ地震の予知はされていない。

だが昔から、「地震の発生する前に、ネズミが居なくなった」「不思議なほど、魚が大量に獲れた」「井戸の水が枯れた」「天空に、異変が見られた」等の地震予知と思える伝承があり、これらは枚挙に遑が無い。

そこで、宏観異常現象といえるものは地震の予知としてはたして可能か、どうかについて、予知現象とされている現象をいくつか挙げてみてみたが、特に動物の予知についていくつか調査したものを報告する。

地震について過去に発生した世界の地震発生情報から、動物がどのように地震を感じたかについてみてみると、その中で動物が地震を事前に予知していたと思われる事例が多いが、なぜ、地震が発生する前に探知できたのか（動物が、感じていたと思われる反応）、各地震例をあげ

て述べたい。地震は、一般的に地殻の上部マントルのプレートにひずみが生じ地震波となり、大地に振動を起こすと考えられているが、世界的に地震の予知は不可能とされ、メカニズムはまだ十分に解明されていない。

歴史的な地震発生の記録を見ると、416年7月に奈良で発生したと日本書紀に書かれており、これが史記に記載されている最初の記録となる。また、976年に京都中心に発生した地震は、御所、寺社等の倒壊等被害甚大であったためか、天禄から貞元に年号が改元されている。規模では、1596年近畿地方で発生した地震が、4万5千人以上の死者、伏見城天守閣、方広寺大仏殿の倒壊をおこしている。この様に、地震は大地が揺れる、損壊があるのはさることながら、多くの死者も伴うため、昔から恐れられている災害のため、地震予知について、日本だけでなく、外国においても、いろいろな角度から研究されているところである。次に、地震予知を証明するといわれるものについて、各々研究されているところであるが、岡山理科大学弘原海（わだつみ）教授は、地震前の犬が鳴く、猫が騒ぐ、月の色、又、雲が異常等の宏観異常現象の調査研究を進めていき、地震前の動物の異常行動等を地震予知として活用すべきであると提言している。

主な宏観異常現象からの予知

①地震雲観測による予知：地下岩盤の圧電現象により、大気に高電圧がかかり、地磁気の中を帯電した水蒸気が風により、収縮する方向に集まり、上下に発散収縮の力が加わり、これが大気層の水蒸気を特異な形の雲にして、地震雲になるといわれている。そして、この地震雲を観測することにより、地震の発生日と地域を予測できるとされる。②ラドン検出による予知：岐阜大学では、観測システムによりラドンの検出調査をしている。放射線医学総合研究所石川徹夫博士は、1995年の兵庫県南部地震前（以下、「阪神大震災」という）に、大気中のラドン濃度に大きな変化が見られたことから、今後、ラドンを測定することにより地震予知へ活用することが可能として研究をしている。③FM電波の異常により予測する：上空の電離層に異常が起こり、FM電波の到達距離が異なることを

ンの色調として見え、しかし、その見える視力等はかなり幅があるのではないと思われる。

例えば、猫、トラ等の視力は0.2程度であるが動物視力には優れていると言われており、また夜行性だけに夜間の物体を見分ける能力は人間よりは優れていることから、可視光線の見える範囲は分かっている(波長380~750nm)以上に見ることのできる能力が広く、そのため人間には見えない靈魂等(靈魂の波長は不明)が見えるため、カラス、犬、猫等の動物が異常な鳴き声を挙げたり、行動をしたりするとき人間が死ぬと言われるのではないかと推定する。

ただ、この見えるという能力も人を含めた動物が狩をし、生きていく上に必用とする能力であり、動物からすれば通常的能力であって、人間だけが太古には持っていた能力が退化したため分からない、見えないというだけと思われるのではないかと考える。

心霊家の某氏が以前話されたことだが、アリ、蜂、鳥等、巣作りの時には例年より高いところに巣作りをすることがあるが、その年は必ず大雨などが降ることが多いのだが、それは人間の我々には分からないが昆虫、鳥などには「どこからともなく、大霊の声で、高いところに巣を作りなさい」と教えられるため、巣が水没することなく、又、低いところの巣作りの年では地震などが多いと話されていた。

猫は、古来より人の心を読むためか(テレパシーによるとと思われる)主人が何kmも離れていても、その場所が分かっていると言われていた。また、夜行性なので独自の世界を持つような印象を与えていて、江戸中期の「和漢三才図絵」では、10歳以上の長寿の猫の尾が2股に裂けた猫股の怪猫となって、化けて災いをなし、暗がりでは火花を飛ばしたり、油をなめるなどの妖をなすと説明されている。さらに、葬式で死体を奪ったり、死体を躍らせたり、犬、人を食ったりすると、林羅山の「つれづれ草野槌」に書かれている。

「甲子夜話」では、高木伯仙という医師がいて、ある夜、枕元で音がするので目を覚ますと、飼っている猫が首に手ぬぐいを下げ、立ち上がり、踊っているのを刀で斬ろうとすると逃げたと言う。

これらの話が芝居にもなったりして、有名になったので、以来、猫の飼い主は猫股にならな

いように尾を切ったり、子猫が生まれ尾が長いのが居たら、それを捨て、短い尾の猫だけを育てたので、和猫といわれる短い尾の猫が種類として位置づけられるようになったようだ。他に、三毛猫の雄は、船乗りが船の守り神として特に大切にしているが、これは、三毛猫に、ある種の船災害の予知能力があり船を守るためかもしれない。

ネズミでは、予知能力があるからか家が火事になる前には、ネズミが居なくなり、後で「そうだったのか」と言われている。以前ある霊能者の方から、「夜中に、鴨居を走るネズミを見ていたら、途中、ふっと居なくなり、別の鴨居の場所を走っていた」と聞いたことがあった。これはテレポーションかと思われるが、いずれにしても人間からみれば動物達は皆不思議な能力を持っていると思われる。

飼犬、猫が飼い主の所へ戻ることについてだが、何キロも離れた飼い主のもとへ、何日も、何年もかかって、帰ってくる例が数多く報告されている。これについての話は、国内、外国を問わず多くあり、心情的にはいとおしく、うれしい事例だが、帰ってくる理由は、飼い主とのテレパシー、臭い、体内磁石でなどと、こじつけて科学的っぽく説明されているが答的には不明である。犬、猫の帰巣本能では、飼い主とのテレパシーと考えられ、ニューサイエンティストでは、動物が一種のマイクロ波により、交信するとしたテレパシーを使うとの説が掲載されている。

テレパシーについて、「人の思考を犬が受け行動するのは、犬と(猫も同様だが)人間との共有の感受性のようなものが働いている。」とアメリカのギルバート博士は述べている。また、ソ連のドワーロフ博士は、テレパシーは脳から出る電磁波であると述べている。鮭が、誕生した川へ回帰すると言うことについてだが、現在の説明として生まれた川に帰るのは「川の臭いで」と言われているが、多くの川の水が流入して混ぜられた海水の中から、どうしてその川の水だけを選別できるのか。そして、鳩は磁気を感じる細胞の能力が高く磁気を感じて、又、紫外線を見て、地形を認識して巣に帰る等と言われるが、なぜ磁気をも狂わせる電磁波の多いビ



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp
公式サイト <http://psi-science.org> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

地震の動物予知

三好 一郎

はじめに

2011年3月11日の東日本大震災から、早いもので9年が過ぎている。震災の記憶は、人々から表面的には薄らいできているが、その痛み、恐れは深く心に刻み込まれ、忘れることはできない。地震の恐怖は、昔から怖れられているとおり、地震・雷・火事・親父と伝えられるように消えることはないと言える。

その恐怖感からか、また大震災が近いうちに発生するのを知っているためなのか分からないのか、NHKでは何回にもわたり地震災害の特番を打っていた。なお、注目されている東海・東南海・南海地震は、想定東海地震と東南海地震、南海地震が同時発生するという南海トラフにおける連動型巨大地震のことをいう。南海トラフでは、過去に100～150年程度の間隔で巨大地震が繰り返されているから、時間的にみればいつ発生してもおかしくない状態と言える。

地震国である日本は、地震は常に発生しているだけでなく、いつ大きな地震が発生するかもしれないことから、東京大学を中心に地震予知研究に力を注いでいるが、いまだ何十年先には発生する可能性があるとかの、現実とは乖離した報告しかない。

地震予知と言えば、人々が避難する必要から1週間、3日位前までには通知されるのが予知とも思えるが、海洋プレートの状況にこだわるためか、多くの予算、年数をかけて調査はしている、今後も予知はできないのではないかと思われる。

宏観異常現象

まず、動物のその特異な能力についてみると、数多く挙げることが出来るが、その幾つかを述べてみると、宏観異常現象からの地震予知として、古来より地震の前になぎが暴れる、犬猫が異常行動をしたあと地震が起こったとする現象についてだが、その地震予知については多くの説が有る。その説の一つは、地下岩盤を構成する花崗岩等に圧力がかかり地震が起き、その時の圧電効果により電気エネルギーを発生させ、地表であれば地表に電流が流れ、他の魚類より電位を感じる能力の高いうなぎ、ワニ等が反応し、地上においては電磁波を生じることで、カラス、ハトなどの感磁能力の高い鳥類、犬猫等がその異常を感じ取るにより地震を予知していると考えられている。

ただ、これは人間から見た場合、予知していると解釈をすることになるが、動物達からは、ただ普通に持っている能力で感じているだけで、感じなければ生存していけないという当然の能力であると解釈できる。

その能力について、科学的に研究している組織もあるが、今日においても国内の地震学者は国内外を問わず動物の地震予知については懐疑的であり、この分野における研究は進んでいないのが現状である。

次に、カラスが屋根で鳴くとその家の人が亡くなるなど、人の死を予知すると言われている、人間の死の事前感知についての検証であるが、本来動物は夜行性であるから、我々人間が太陽下で見えるカラーの世界(400～800nmの範囲の可視光線)は必要なく、夜間の色のモノトー